

ビジョン達成に向けて

CSR活動の積極的発展

2012年5月には当社社員によるステークホルダーダイアログを、2013年4月には2012年度までの活動をテーマとして、お客様や有識者を交えた、ステークホルダーダイアログを開催しています。

CSR活動の適切性確保

CSR活動に関する中長期目標と単年度の取組みについて、その進捗具合を確認し、最終成果をもとに次年度計画を設定する初年度のPDCAを確保しました。

ステークホルダーダイアログ

西松のCSR ～「これまで」と「これから」～

2013年4月18日、西松建設の第2回目となるステークホルダーダイアログを開催しました。

今回は、それぞれ立場の異なるステークホルダーとして3名の方をお招きし当社のCSR活動について意見交換を行いました。

西松建設株式会社
コンプライアンス委員長
元一般社団法人共同通信社
常務理事
江畑 忠彦 様

麗澤大学
経済学部 教授
高 巖 様

みずほ銀行
管理部 副部長
山田 隆士 様

代表取締役
執行役員副社長
建築事業本部長
前田 亮

代表取締役
専務執行役員
共通部門担当役員
鈴木 堂司

執行役員
社長室長
河埜 祐一

CSR-
コンプライアンス
推進部長
戸田 伊作

ファシリテーター
(株)サステナビリティ会計事務所
代表取締役
福島 隆史 様

【開催概要】 ◎開催日/2013年4月18日 ◎開催場所/現場見学会：北品川再開発出張所 ダイアログ：西松建設株式会社 本社会議室
【スケジュール】 1.現場見学会にあたっての工事概要説明 2.現場見学会 3.ダイアログ開催の趣旨説明 4.ダイアログ 5.総括と閉会のご挨拶

●「7+1の活動ポイント」にもとづく 西松建設のCSR活動

福島 西松建設のCSR活動は「7+1の活動ポイント」にもとづいています(P15参照)。これは社会的課題に対応した7つのポイントに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション推進というポイント1つをプラスしたものです。今回のダイアログもその一環として、貴重な機会となるので、どうぞよろしくお願い致します。それでは、それぞれのお立場から西松のCSRの取組みについてご意見をお聞かせください。

●海外でのコンプライアンスについて

高 今回、ダイアログ参加に先立ちコンプライアンスマニュアル海外実践版を拝見しました。日本語と英語で70ページを超える量で、国ごとの法令や商慣習に配慮し、現場の方が判断できるように規準が明確にされています。私は30年近く企業倫理の研究をやっておりますが、海外リスクに関し、ここまで体系的に取り組んでいる日本企業はないとの印象を持ちました。

戸田 各国の状況変化に対応するため、コンプライアンスマニュアルは毎年見直しています。今後は、運用状況の確認が重要であると考えています。

●「お客様のお客様」の立場を意識した活動

福島 「7+1の活動ポイント」のなかでも『建設・顧客』は最上位に位置づけられています。顧客というお立場から山田様はいかがですか。

山田 私たちは支店の建設において、施主として西松建設に仕事を発注しています。その時点では西松さんにとっての私たちは顧客ですが、私たちの先にもお客様があり、支店はまさにその地域における「みずほの顔」であります。施工後は、それを支えていただく重要な事業パートナーとなっています。

鈴木 ありがとうございます。竣工を迎えると私たちは現場から移動しますが、お客様はそこでその施工物を何十年と使い続けるわけです。現場の社員は『施工中は迷惑をおかけすることもあり大変申し訳ない』という謙虚な心で地域の皆様と向き合っています。



●重要課題における目標設定について

福島 西松のCSR活動において現在3つの重要課題が挙げられています。ガバナンスについての情報開示と透明性の確保、環境経営、人材育成です。これらの目標設定のあり方についてご意見をお聞かせください。

高 CSRというと漠然としがちです。できることから取組むことはいいことですね。ただガバナンスは10年後とせず、すぐにでも取組むべきではないでしょうか。特に末端にまで浸透させるには勢いも必要です。



河埜 ガバナンスは、社外取締役制度の導入等、既に取組んでおり、社内の風通しも少しずつ改善されてきています。社長は現場の社員との対話をとても大切にしています。広報部では社長への質問を受け付け、それに返信する社内イントラも整備しました。今は情報開示にも積極的になっています。

江畑 今後はソフト面での情報発信も充実させて欲しいですね。たとえば東日本大震災への復興貢献などは、もう少し積極的にアピールした方が良いと思います。またそのことが評価されることで社員のモチベーションアップにもつながるのではないのでしょうか。

鈴木 私の担当は環境経営です。『環境経営度No.1』という目標は、正直言ってかなりハードルが高いと感じていますが、全部署と協力して本格的に動けるような委員会組織をつくり、目標に向かっていきたいと思っています。



●グローバルな人材の育成について

高 西松は2012年で香港進出50周年、2013年でタイ進出50周年と聞きました。海外における事業活動を今後も伸ばして行ってほしいと思います。人材育成においても海外で具体的な数値目標を立てているのですか。

前田 私たちは、それぞれの国を一つの支社と捉えています。おかげさまで日本企業の海外案件を多数いただいております。今後の海外の売上高は、中期経営計画において2割を目指した計画を立てています。



河埜 人材育成においては、土木部門では適性を判断するために若手を1年間海外に派遣していますし、また建築部門では2012年には年間7名を海外に派遣し経験を積ませています。



江畑 アジアを中心としたグローバル時代を迎え、感受性の豊かな20代のうちに海外での事業活動を経験するのはいいことですね。そのなかから未来の幹部候補が生まれると思います。

●社員がやりがいを感じられる会社を目指して

戸田 新しい取組みとして、2013年3月には従業員意識調査を行いました。人事制度改革にとまない、その改善に向けた課題も抽出されていますが、やはり建設業は人材が重要



です。西松ブランドをつくっていくために、社員がよりやりがいを感じられる会社にしていきたいと思っています。

山田 私どもみずほ銀行は、東日本大震災では大変お世話になりました。震災発生直後から多数の支店の被災状況を確認する必要がありましたが、あのような極限の状況であったにもかかわらず、迅速かつ短期間でご対応いただき大変感謝しております。この場をお借りして御礼を申し上げます。



前田 ありがとうございます。短い時間ではありましたが、いろいろなお意見を頂戴し、さまざまなヒントをいただきました。進めてきた改革も、なぜそれをしなければいけないをもっと社内の隅々まで説明し、それを全社員で共有する必要があると感じました。さらに風通しの良い会社、透明性のある会社をつくってきたいと思っています。

福島 本日は、どうもありがとうございました。

第三者意見

今回で3冊目となる「西松CSRレポート2013」からも、西松建設が信頼回復に向けて着実に前進していることが伝わってきます。ステークホルダーを明確に意識しながら、その期待に応えていこうとする姿勢は大いに評価できるところです。2012年度は、CSR活動や社会貢献活動に関するPDCAが一巡しました。外部ステークホルダーをまじえたステークホルダー・ダイアログが行われた事実にも、西松建設がこの分野で着実に前進していることが窺われます。全国各地で展開される社会貢献活動の一覧からは、活動の広がりを実感することができます。

CSRレポートには広報的な意味もありますが、本来は当該企業のありのままの姿を対外的に情報発信するための媒体です。組織の活動内容をCSRレポートに適切に反映させるためには、若干の工夫が必要です。たとえば、今回のレポートでコンプライアンスについて説明した28ページで、私は、基本方針とは別に行動規範があるのかどうか、若干の疑問を抱きました。また、研修等によって周知・啓発を図っているとありますが、どんな研修をやっているのだろうか。「推進部」に確認してはじめて、コンプライアンスマニュアルが完備されていることを知りました。実際にそのマニュアルを見せていただくと、「上司心得6カ条」のほか、各現場で発生する可能性のある事例集と対応の仕方・設問から構成された実によくできたツールでした。これとは別に日英両言語で編集された「海外実践版」も作成されています。CSRレポートの上でこれらのマニュアルの中身まで開示する必要はないかもしれません。しかし、行動規範のほかにも有用なマニュアルを作成している事実は触れたほうが、むしろ読者が



西松建設のコンプライアンス体制の「深み」を理解する助けになるように思います。

環境に対する取組みは、社内で認識されているとおり、まだ十分とは言えないようです。<N-Vision2020>にあるような「環境配慮企業宣言に向けた取組み強化」をいっそう進めて、数年後には、「環境でも西松」と言われるようになってほしいものです。

麗澤大学 外国語学部 教授
前企業倫理研究センター長 梅田 徹

第三者意見を受けて

2012年のCSRレポートに対しては、当社のコンプライアンス委員長である江畑様から、「人材を大切に活動すべき」との第三者意見をいただきました。今年3月に従業員意識調査を実施し、その結果を踏まえ、社員と会社のWin-Winの実現に向けた活動を推進しています。

西松建設は、『社員一人ひとりがCSRの実践者であり、全てのステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を実現する』ことを目指して活動しています。「ステークホルダーを明確に意識しながら、その期待に応えていこうとする姿勢は大いに評価できる」と梅田教授より評価をいただき、意を強くしました。また、「CSRレポートにおいて、組織の活動内容を適切に反映させるためには、若干の工夫が必要である」「環境でも西松と言われるようになってほしい」というご意見をいただきました。ご指摘・ご期待に応えるような活動に取組み、さらに充実したレポートにすべく努力していきたく思います。

CSR・コンプライアンス推進部長 戸田 伊作

本レポートに関するご意見等

西松建設では、より多くのステークホルダーの皆様当社のCSR活動を知っていただき、率直なご意見を頂戴することで、今後のCSR経営にもとづく企業活動のさらなる発展を目指しています。つきましては、本レポートおよび当社のCSR活動についてご意見等ございましたら、下記URLにアクセスいただき、アンケート回答とともに御寄せください。

ご意見等のお寄せ先 <http://www.nishimatsu.co.jp/csr/communication/>